

第11回大会8月18日(土)開催

商い甲子園

弥太郎生誕の地に また熱い夏がやってくる

3月6日に全国「商い甲子園」実行委員会(実行委員長 松本健)を開催し、次回の第11回大会を8月18日(土)に開催することを決定しました。



「あきずに商い」とはよく言ったものです。「安芸(あき)だから「商い」ですか?」と聞かれます。「それもありません」と答えたります。安芸市は、なんと「あき」の語源といわれています。弥太郎の創始者『岩崎弥太郎』の誕生地です。

市の地域振興を目的に「商い甲子園」をはじめました。商人(経済人)として大成した象徴として、当地の生家に建つ、その銅像に励まされながら、11回目となる、全国「商い甲子園」大会を開催できることは、私たち実行委員の喜びと誇りです。



岩崎弥太郎賞

毎年、優勝チームには、その誕生地であることから『岩崎弥太郎賞』を授与させていただきます。

地域がこの大会を機に、少しでも活性化されることを願って開催するものです。更に、参加された高校生には、安芸市民や他校との交流等による高校生活の思い出づくりと、企画から販売までを実践的に取り組める貴重な体験の場所になると考えております。

全国「商い甲子園」
実行委員会事務局
安芸市本町2-7-5
安芸本町商店街振興組合
TEL (0887) 34-3033
FAX (0887) 34-3093

だいています。特に今大会では、念願の優勝旗を作成することができました。この深紅の優勝旗を「初めて手にするのは、どのチームか?」とわたしたちも、いまから胸が高鳴っています。

今年の「商い甲子園」は、8月18日(土)に安芸本町商店街の街路にて開催することとなり、実行委員会は、いま詳細プログラムを詰めや準備を進めています。8月にたくさんの方の高校生や皆さんと安芸本町商店街でお会いできることを楽しみにしています。



PC作成では得られない親近感があるのが手書きPOPの魅力

第11回大会にむけて

店主のミニ講座開催

江戸時代の思想家 家石田梅岩は「学んで商人の道を知れば(中略)道を外れることなく栄えるのである。これが商人の徳である」と言っている。学んで共に楽しみ地域貢献!が、全国「商い甲子園」のコンセプトであり、第8回大会から、商店街の店主等がそれぞれの仕事・経験を活かして講師となり、大会前日に1時間程度のミニ講座を開催しています。

○商業デザイナー「POP作成講座」

POPの作り方が一つで店の雰囲気が変わり、売り上げにもつながり、とても奥の深いものです。

○カメラ店主「商品撮影講座」

スマホを用いて簡単に写真撮影ができる時代になりましたが、カメラの構造や商品撮影の方法など、長年カメラをあつかってきた店主ならではの経験をもとに紹介いたします。併せて、スタジオ体験も楽しめま

○保険会社「ビジネスマナー講座」

みだしなみ、名刺交換など、一足先に新社会人向けマナー講習を体験します。

以上の4講座を大会前日の夕方に安芸本町商店街の店舗 コミュニティ施設で開催予定です。多数のご参加お待ちしております。

講座では、全国「商い甲子園」にすぐ役立つよう、主にフェルトペンのつかい方をお教



プロの機材で人物撮影が体験できます

えします。パソコンではできない、手書きのあたたかさを学習します。



民泊はお勧めですよ！

今年も、海の幸・山の幸に恵まれた安芸の暮らしが体感できる民泊交流事業を、商店街関係者と安芸市民の自宅で実施します。利用された高校生からは、「安芸の人々が温かい。おもてなしの心を強く感じた。」「初めての民泊がよい思い出になった。」「との感想をいただき、先生方からも「最高でした。」「と大好評をいただいています。商い甲子園の良思い出づくりに、みなさんの参加を

お待ちしております。【前回の民泊】第10回大会では、大阪府立園芸高校、愛媛県立南宇和高校、同県立西条高校の26名の生徒さんに、本町商店街の家庭などで民泊いただきました。写真は、その一コマで、ヘルスメイトさんのご協力で、「なすのタタキ」と「巻き寿司」をつくり挑戦している様子です。和気あいあいの中、料理を楽しんでいただきました。



安芸本町商店街の紹介

「商い甲子園」大会の舞台になります。安芸本町商店街についてご紹介します。



安芸本町商店街は、高知市内から車で約50分、阪神タイガースのキャンプ地安芸市の中心市街地にあり、江戸時代の終わり頃から今日まで商いをしていられるお店もある、とても歴史のある商店街です。三菱グループの創始者である岩崎弥太郎も歩いたであろう道も今では、新しく近代的な町並みの商店街となっており、海岸線に沿うように

約60店舗が東西に並んでいます。商店街の取り組みとしては、「商い甲子園」のほか「社会貢献事業」として、中山間地域における高齢者等の買い物支援するための「出張商店街」や「移動販売」を取り組んでいます。このほか本商店街は海岸に近接しているため、徒歩3分で海に出ますので、ショッピングだけでなく街歩

きの散歩観光も楽しめる全国でも珍しい商店街です。

弥っ太郎市



「弥っ太郎市」は本町商店街にあった量販店が倒産したのを契機に、「地盤沈下が続く中心商店街に、にぎわいの場を」と市商店街連合会が企画し、呼び掛けに応えた農家や鮮魚店主ら44人が「弥太郎組合」を設立。生産者の方々を集めるところからお店の内装までボランティアで取り組んだ手づくりの直販所です。主に生鮮食料品を扱っています。岩

崎弥太郎の出身地というところ、「いっちょ やつたろう！」という威勢をかけた名前になっています。

虎いちばん像



阪神タイガースとゆかりの深い安芸市。「虎いちばん像」は2003年に阪神優勝祈願のため、安芸市名産の内原野焼の窯元、西邸滋さんのデザインで建てられたモニュメント石像。その年のタイガースは、18年ぶりにみごとに優勝したので、「御利益がすごい！」と評判に。市街地の活性化にも効果があれば良いのですが。



移動販売

山あいに点在する集落などで日常

の買い物に苦労している方を支援するため、一昨年から地元のスーパードラックで移動販売事業を始めています。

そのうち、東京都から移住した濱田智子さんは、安芸市の地域おこし協力隊として活動した経験から、1人暮らしの高齢者の多さを痛感し、買い物に不便を感じる声に「お返し」の声をあげよう事業を始めました。いまでは、後から移住してきたご主人と2人で「山で暮らし続けるお年寄りを支えたい」と頑張っています。



高校生がつくる「商い甲子園」

「商い甲子園」大会は、参加チームの高校生のみならず、地元高校生も「縁の下」の力を持ち、的なるボランティアとしてご協力をいただき、開催することができています。そのなかで、3年間、選手として出場や大会運営のサポートとして協力いただいた高知県立安芸桜ヶ丘高校「ビジネス☆応援部」の元部長の大坪芙規さんに、卒業にあたり第11回大会に向けたエールをいただきました。

安芸桜ヶ丘高校の取り組みとして、3年生の総合実践の授業で参加することになっていきます。私は、1、2年生の頃は商い甲子園をサポートする形で参加し、切磋琢磨する選手を見



ました。なので、私は自分が選手として商い甲子園に参加することを楽しみにしていました。3年生になり、私自身が選手として参加しました。準備不足や予定を詰めることが足りず、良い成績は残せませんでした。実際の商い甲子園では、場所や時間帯、どのようなお客様が訪れるのか、どの商品をどのくらい仕入れたら良いのかやお客様の気持ちを考え、そのことをチーム一丸となって行うこと、一つ一つの商品に込められた思いやお客様のことを、場の状況をよく考えることができました。そして良い経験となりました。大坪 芙規